

父親は書き板を持って来させて、「その名はヨハネ」と書いたので、人々は皆不思議に思った。すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、ものが言えるようになって、神をほめたたえた。（ルカ福音書1：63～64）

幼子よ、あなたはいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、その道を備え / 主の民に罪の赦しによる救いを / 知らせるからである。（ルカ福音書1：76～77）

エリサベトは、月が満ちて男の子を産んだ。不妊の女と言われ、年を取っていた彼女に神が慈しみをくださったと、近所の人々や親類は喜び合った。8日目、割礼を施すために人々は集まり、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。ところが、母エリサベトは「いいえ、ヨハネにしなければなりません」と言った。人々は、親族にはそのような名の人はいないと言い、父ザカリアに「この子に何と名を付けたいか」と手振りでも尋ねた。

「父は書き板を持って来させて、『その名はヨハネ』と書いたので、人々は皆不思議に思った。すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、ものが言えるようになって、神をほめたたえた。」天使ガブリエルの言葉を信じられなかったザカリアは口が利けずにいたが、書き板に、天使ガブリエルから言われた通り「ヨハネ」と書いた瞬間、口が開き、舌がほどけた。そして、神をほめたたえる言葉を、真っ先に語った。近所の人々は皆、恐れを抱き、このことはユダヤの山里中の話題になり、生まれたヨハネは一体、どんな人になるのかと言いつつ合った。

舌がほどけたザカリアは聖霊に満たされ、「イスラエルの神である主は / ほめたたえられますように」と語った。神賛美が最初の言葉であった。著者ルカは「ザカリアの預言」で、天使の言葉、即ち、神の言葉を信じる者は神賛美の言葉が与えられ、そこから、真実な言葉が生まれてくると書いている。ザカリアに神が訪れ、預言者たちの口を通して約束された贖いの救いをダビデの家に起こされた。また、イスラエルの父であるアブラハムに誓われた通り、我らの敵、憎む者から救い出し、先祖に慈しみを示されたように、聖なる契約を覚えていてくださる。これは、主イエスによる救いが、アブラハムに立てられた神の救いの契約、イスラエルのエジプトの奴隷からの解放、ダビデへの契約に繋がる、救いの成就であるとのユダヤ人キリスト教信仰を背景にしていると思われる。

続いてザカリアは、ヨハネの生涯の意味を預言している。「幼子よ、あなたはいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、その道を備え / 主の民に罪の赦しによる救いを / 知らせるからである。」ヨハネは、主イエスの歩まれる道を備える先導者であり、主イエスの罪の赦しの救いを知らせる務めを果たす。ヨハネに先導される主イエスによる罪の赦しは、ただ、神の憐れみによる。高い所から曙の光が訪れ、暗闇と死の陰に座し、苦悶している者たちを照らして救う。そして、人々の歩みを平和の道に導く。ザカリアは、ヨハネが、その先の主イエスによる救いの出来事、主イエスによる救いと平和と喜びの道へと導く者であると、その誕生を喜び、預言し、高らかに歌い上げている。

彼は人々に悔い改めの洗礼を授けて神への思いに導き、主イエスをキリストと指さす「指」として、最後の預言者の使命を果たした。そして、悲惨な殉教を遂げた。

ヨハネは成長し、彼への霊は強く働き、人々の前に現れるまで、荒れ野にいた。